

事業報告書

事業名 親子の絆づくりプログラム
「赤ちゃんがきた(愛称:BP)」講座



- 1 実施団体
特定非営利活動法人青梅こども未来
- 2 担当課
子ども家庭支援課
- 3 実施時期
平成 24 年 10 月 16 日、23 日、30 日、11 月 6 日 毎週火曜日
- 4 参加者
第一子を育てる母親と乳児 12 組
- 5 実施場所
新町市民センター 和室
- 6 事業の目的
 - ・初めての子育てする母親の「仲間づくり」と少し先を見越した「子育ての基礎知識の学び」
 - ・親の子育て人生を支援する
- 7 役割分担
 - ・団体の役割
会場準備、広報活動(ニュースレター、チラシ、口コミ案内等)
機材準備、講師依頼、電話での受け付け業務
 - ・担当課の役割
広報誌掲載で周知、会場予約、3.4 か月健診でのチラシ配布

- 8 事業の効果（どのような地域課題が解決できたか）
- ・初めての子育てで、地域や家庭で孤立していた母親同士をつなぐことができた。
 - ・赤ちゃんの特質や少し先を見越した子育ての基礎知識を学ぶことから、親と子の絆を深め子どもの心に「※心の安定根」育む知識や大切さを伝えられた。
- ※自分が産まれて出てきた社会や母親をはじめ自分の世話をしてくれる人というものは、暖かくて信頼できる。自分は安心して安全にすごすことができる」という人や人間社会に対する基本的信頼感。

9 目標達成

事業の目標

- 1.子育ての孤立化を防止する。
- 2.初めての子育てをしている親子の子育て仲間づくり。
- 3.子どもの心身の発達を学ぶことで、焦らず、完全を求めない、ゆったりと長いスパンで子育ての見通しを持つ。

目標の達成具合

- 1.子どもの月齢の近い子育て仲間づくりができたことで、一人だけでの子育てにならず、親同士での学び合いが(ピアレビュー)できるようになった。
- 2.少し先の子どもの成長を学ぶことで、焦らず子育てを楽しみたいとの思いをもってもらえた。
- 3.子育てに行き詰まった時に、お互いに助け合える人間関係を生み出すことが出来た。

10 事業の実施内容:週に 1 回 2 時間のセッションを 4 回(4 週)

第一回:テーマ新しい出会い

第二回:テーマ赤ちゃんの生活リズムと環境

第三回:テーマ赤ちゃんとの接し方

第四回:テーマ親になること

- ・各セッションごとに構造化されたプログラムを進める

11 実施団体と担当課の事業評価

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目	団体	担当課
(1)事前の話し合いを十分に行い、役割分担は明確になっていた	4	4
(2)事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
(3)協働の役割分担は適切だった	4	4
(4)協働相手は適切だった	4	4
(5)対等な立場での協力関係を築けた	3	3
(6)協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
(7)事業実施は円滑になされた	4	4

(8)設定した目標が達成された	4	4
(9)協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
(10)今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

12 まとめ（今後の課題や改善点など）

- ① 週に1回、2時間のセッションだったが、月齢の低い乳幼児を連れての参加は、大変だったと思う。しかし、それにも増して、回を重ねる毎に参加者の笑顔が多くなった。
- ② 月齢が低い親子は、まだ外出することも少なく、同じ位の月齢のお子さんとなかなか出会えないとおっしゃっていた。同じ位の月齢の親同士だからこそお互いの悩みを安心して話し合えるようだ。
- ③ 参加者の声からも、この講座に参加し友達ができ孤立した子育てから解放された事がわかる。BP講座をこれからも年数回開催し継続していく必要性を今回の4週のセッションから強く感じた。
- ④ 市民提案協働事業に今回のBPプログラムを提案し、プレゼンテーションを経て子ども家庭支援課と協働できる様になったが、最終承認決定時期がずれたので当初予定の開催日程を変更せざるを得なかった。それ故に、二人のファシリテーターの日程変更調整が難しかった。
- ⑤ 子ども家庭支援課が会場を事前に予約出来たのはよかった。
- ⑥ 生後2ヶ月から6ヶ月の初めての子どもを育てている母親と赤ちゃんが対象という事で、対象者への周知が難しかった。広報掲載等で子ども家庭支援課との協働のおかげで参加者を募ることができたが、生後まもない母子は公共の場に出向くことは少ないので、定期的に出向く健康センターが一番の窓口なのではないかと思うので、今後の協働相手として考えたい。